

大津市湖都文化推進審議会（令和7年度 第1回） 会議録（要旨）

1 開催日時 令和7年8月27日（水） 14:00～16:00

2 開催場所 大津市役所 別館2階 321会議室

3 出席者 委員 7名

（小寄委員、中根委員、音羽委員、角間委員、
山田委員、中井委員、今井委員）

事務局 6名

（川島市民部長、東市民部次長、文化振興課：井上課長、中嶋補佐、
栗山副参事、岡田主事）

傍聴 なし

4 内 容

1) 開会

- ・部長挨拶
- ・委員・事務局紹介
- ・会長、副会長選出（会長：小寄 善通氏、副会長：中根 庸介氏）
- ・会長挨拶

2) 議事

第3次大津市文化振興計画に基づく事業の進捗状況について

【第3次大津市文化振興計画に基づく事業の進捗状況について事務局から説明】

【質疑】

○委員 若年層の参加状況について、どれくらいの割合で事業に参加しているのかを把握することが重要ではないのか。事業を継承する観点からも、ターゲット層を明確にして年齢層別のデータを資料に盛り込む必要があるのでは。

○事務局 アンケートに年齢層の質問を設けており、その結果をもとに推計が可能であるのと、特定のイベントの日に調査することもできる。全日程での調査は困難であるが、事業ごとの年齢構成を把握する方法を検討していきたい。

○委員 歴史文化情報集約サイトについて、今後どのように活用していくのか。

○事務局 文化振興課、歴史博物館、文化財保護課が連携を図りながら、最新情報を迅速

に発信している。写真や画像を用いたわかりやすい発信を心掛け、担当職員が直接更新できる仕組みも整えている。

○委員 大河ドラマ「光る君へ」で大津市は全国的に注目を集めたが、その後の発信はどうなっているか。源氏物語だけでなく、芭蕉の俳句や百人一首など幅広い文学資源を取り上げて発信することが重要ではないか。

○事務局 大河の追い風を受けて大津市が注目を集めたことは事実であり、それを一過性にするのではなく、源氏物語だけでなく、今後は百人一首や俳句など他の資源も積極的に発信していく。また、産業観光部とも連携し、次の大河ドラマや坂本城など歴史資源を活かしたプロモーションも検討している。

○委員 文化施設間の連携について具体的な取組はあるか。

○事務局 回遊型コラボレーション事業としてスタンプラリーを実施し、複数施設を回遊してもらう仕組みを導入している。また、今年度から指定管理の更新にあたって、伝統芸能会館とスカイプラザ浜大津を同一の事業者による一括管理とした。これは、利用者が用途に応じて2館を使い分けるよう案内することや、2館合同の催しを開催するような連携につなげる狙いがある。それぞれの強みを活かして、連携を図りながら、新たな利用者を増やしていきたい。

○委員 施設を回るだけでは、効果が低いのではないか。ただ単純にスタンプを押すだけでなく、実際に参加者が体験する機会も増やしていただきたい。

○事務局 市民会館では、舞台裏を見学するツアーなども企画・実施している。今後もこのような体験型コンテンツを充実させていくことを検討していきたい。

○委員 文化振興課の「民間のノウハウを活用した人材育成研修」事業の評価が低い、指定管理者の自主事業に問題があるのか。

○事務局 利用者数が少なかったため低評価となった。引き続き、若年層の参加拡大も指定管理者に要請していく。

○委員 市民会館については、魅力あるコンテンツがあっても、老朽化による設備不良が足かせとなりブランドイメージを高めにくい。修繕の見通しはあるか。

○事務局 大規模改修には膨大な費用がかかると試算されており、現実的にすぐ対応するのは困難である。今後の課題として検討を進めたい。

○委員 子ども向け事業について、出前講座の復活を望む声が学校現場からあがっている。例えば狂言などは教育的価値が高く後継者育成にも繋がる。大津市は伝統

芸能会館もあり、もっと活用すべきでは。

○委員 学校現場は働き方改革の影響で時間的余裕がないのでは。教育委員会と連携しつつ、夏休み等の学校外の機会や地域施設での開催も含め検討していただくのがよいのでは。

○委員 文学資源の「見える化」が必要である。例えば堅田には知られてない句碑がたくさんある。デジタル発信だけでなく、文学碑や看板などのハード面の整備をすることで市民や観光客に伝わりやすくなるのではないかな。

大津市歴史文化情報集約サイトの愛称募集について

【大津市歴史文化情報集約サイトの愛称募集について事務局から説明】

【質疑】

○委員 名称は覚えやすく、響きが良いことが大切だと思う。自分としては候補2「ことまど」が良いと感じている。特に響きがキャッチーで印象に残る。

○委員 市民以外も利用するサイトなので、見てすぐに意味が分かるかどうかの大事である。候補2「ことまど」を採用するなら、読みやすさを工夫する必要があるのではないかな。

○委員 響きが良いこと、アクセス時に覚えてもらいやすいことが重要。漢字にすると堅苦しい印象になり、かえって敬遠される可能性もある。ひらがな表記の方が親しみやすいのではないかな。

○委員 検索した際に他の利用例も出てくるため、差別化を図る工夫が必要。疑問が生じやすい名称なら、サイト内で簡単な説明を添える方法もあるだろう。

○委員 提案者との交渉や調整が必要な部分もあるのではないかな。例えば、名称の使い方や説明方法などについて相談できる余地はあるのか。また商標登録など権利面は大丈夫か。

○事務局 提案者との交渉の可能性を検討するとともに、商標登録などの権利面に関する確認が必要である。まず提案者に対し、別表記の許容可否を確認し、併せて権利面の精査を行う。その後、委員長に報告した上で正式な決定とする。

「文学のまち大津」ブランディング強化事業について

【「文学のまち大津」ブランディング強化事業について事務局から説明】

【質疑】

- 委員 将来的に「文学のまち大津」としてどうあるべきか、目指す姿が描けていないと方向性が不明確になる。理想像や将来像を示すべきではないか。
- 事務局 おっしゃる通りであるが、事業としては始まったばかりで、現在アンケートやヒアリングを進めながらロードマップを作成している段階である。市民が文学資源を誇りに思えるようにし、観光事業者も魅力を自ら語れるようなまちを目指している。現状として掘り起こしが不十分であるため、実際に現場に赴き実態を把握するように進めている。
- 委員 事業は市が主体ではなく、市民や地域団体が継続的に担う形が望ましいのではないか。
- 事務局 市の動きが止まると事業も止まるようでは意味がないと考える。多様な市民や団体が主体的に盛り上げていけるような仕組みづくりが重要と考えている。テーマ設定や場づくりを重視し、関係者と伴走しながら進めていきたい。
- 委員 そもそもテーマ設定においては、何が文学なのかの定義付けが難しいが、若者の活字離れが著しいので、その対策も進めてほしい。
- 委員 ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を目指す中で、スタートダッシュが重要。市民主体の動きがあるのか。
- 事務局 文学に取り組む方々は高齢者が多く、担い手不足が課題。一方で「湖都の葉マルシェ」では多数の応募があり、期待以上の反響があった。今後はその参加者との対話を通じて中心となる人材を見出していきたい。
- 委員 地域の作家との連携はどう進めているか。
- 事務局 地域の作家との連携においては、湖都の葉マルシェでの講演会なども計画している。出版社とも協力してプロモーションを図っていく。

3) 閉会